

広島県医師連盟ニュース

2010. 5.31
第 20 号

定価 1年400円
(但し県医連会費に含む)

広島県医師連盟ニュース
発行所
広島県医師連盟
〒733-8540
住所 広島市西区観音本町1-1-1
TEL 082(297)2525
FAX 082(297)2535

日本医師連盟執行委員会

第22回参議院比例代表候補者について、

結論持ち越し！ 実質、推薦撤回か？

日医連執行部の本音は、民主党から1人の擁立を。

平成22年4月20日午後3時30分より、日本医師会館小講堂において、原中勝征委員長の新執行部発足後初となる日本医師連盟執行委員会が開催され、広島県医師連盟から碓井静照（代理出席・松村 誠）・檜谷義美・日本医師連盟執行委員らが参加した。

民主党と太いパイプを持つ原中勝執行部であるが、間近に迫る夏の参議院選挙まで解決すべき課題も多い。その一つに職域代表として現職の西島英利参議院議員の推薦問題が挙げられる。これまで原中委員長は「政権政党が代われば対応も代わるのは当然」と述べてきただけに、その動向が注目された中で開催であった。しかし、議論がまとまらず結論を出すに至らなかった。そこで、早急に各都道府県医師連盟を開催し、再度、今夏の参議院比例代表候補者について協議の上、本会を招集し決定することとなった。



〈日本医師連盟執行委員会 会議の概要〉

冒頭、原中勝征委員長より挨拶があり、議題1. 日本医師連盟人事について、日本医師連盟規約に基づき、原中勝征委員長をはじめ役員名簿は原案通り承認された。議題2. 第22回参議院比例代表候補者推薦については、39/47都道府県が西島英利現参議院議員を次期候補者として推薦していたが、推薦決定後の政権交代、またこの4月から新執行部の発足に伴い、各都道府県医師連盟で対応を協議し、



原中勝征委員長挨拶（要旨）

最終的に日医連で対応を検討することとなった。会議の概要は以下の通りである。

政権交代が起こり、今われわれは総理と直接対話ができ、あるいは厚生労働省にも

の言えるようになった。政権与党からは、マニフェストの作成にあたり、意見を求められることもある。当然、民主党の危険なところは批判しながら、われわれの言うことが正しいからきちんとマニフェストに盛り込むよう意見を述べてきた。

具体的には、今まで懸案となっていた消費税の問題であるとか、あるいは医療過誤における医師の刑事裁判における問題、それから病診から始まる日本の医療制度の再構築など、協議会を設置し議論しようというところまできた。前体制が昨年10月20日に開

催した執行委員会では、当時の唐澤委員長がいろいろな選択肢があるということで、規約を改正された。それが、いずれにせよ「政権政党から候補者を推す」であったものを「政権政党が自民党」との一文を全部消してしまったため、何を基準に人選するのかといった文言がなくなってしまう。

その当時、いろいろな条件を出した際に、確かに今の機関決定した人を推すという項目も何一つないのでという話であった。

私はもちろんそれは承知の上で議論をしていたんだけど、思ったわけだが、結論が出なかったため、本日は先生方のご意見をお聞きしながら、私たちが決定あるいは引き受けなければならないと感じている。

本質は二つの論理となっている。

一つは決定したから、それを守るという筋論である。それから、次の診療報酬改定は民主党が実施するため、今の環境であれば充分な話し合いができ、変更できる可能性がある。なので、ぜひ個人の感覚ではなく、会員のことを大前提に考えていただきたいと提案した。

最終的に結論が出なかったため、再度、各県に持ち帰り、各県の執行委員会で見集約をした上で5月上旬までに再度、執行委員会を開催し対応を決めることとなった。

今夏の参議院選挙まで時間もなく、大変重要な時期であるので、先生方のご意見を伺いながら、進めて参りたい。

議題

1. 日本医師連盟人事について（資料1を参照）

日本医師連盟規約の第6条に基づき、委員長は日本医師会長をもってこれにあたるものとなっているので、原中勝征会長が委員長に就任した。

副委員長および常任執行委員については、同じく規約の第7条、第8条に基づき、横倉義武、羽生田俊、中川俊男、日本医師会副会長、石川育成、日本医師会代議員会議長、藤森宗徳同副議長ら5名が副委員長に、そして日本医師会理事や常任理事ら26名が常任執行委員として委嘱された。

執行委員については、都道府県医師連盟の推薦により115名すべての推薦者が委嘱された。本連盟からは、碓井静照、檜谷義美、福永泰州氏の3名が委嘱された。

なお会計責任者には、前埼玉県医師会長の吉原忠男氏、会計責任職務代行者には、野田健一氏、会計監督者には小山菊雄、中嶋寛、沖田信光氏の3名が委嘱された。

2. 第22回参議院比例代表選挙について

これまで日本医師連盟執行委員会では、全都道府県の約8割が西島英利現参議院議員を次期候補者として推薦していた現状から、挙手多数で西島英利氏の推薦を決定していた経緯がある。

しかし原中勝征委員長は、日本医師会長に就任した直後から、自民党の西島英利参議院議員の処遇について慎重な姿勢を強調しつつも、最終的

には執行委員会の判断に委ねる意向を示していた。

4月17日付けの一部新聞報道では自民党参議院候補者の推薦撤回といった見出しで、執行部内でも民主党支持に反対する意見もあることから、委員長提案として西島英利参議院議員の推薦を白紙撤回するといった報道があった。

（埼玉県）1月20日開催の執行委員会で機関決定したが、今夏の参議院選挙の候補者を1名にするのか2名にするのかという内容が、それとも政権交代と新執行部となったことから、当時の機関決定そのものを見直すということか。

（愛知県）過去の医師連盟ニュースでは、与野党と協調しながらなっているが、西島英利議員は、これまで日本医師会を代表して活動してこられた実績がある。

（執行部）西島英利議員の推薦を取り消すという結論ありきではない。これまでの対応に修正を加える必要があるということだ。

（委員長）今まで政権政党として、自民党がそして西島英利議員が活動されてこられたが、果たして実行されてきたかは疑問だ。今の政権政党である民主党に対しては、対話ができる状況であり、ここにいる先生方は個人の意見を言っているのではない。各県で一度持ち帰っていただき、再度審議をお願いしたい。場合によっては複数の人を支持する必要があるのではないか。次

回の診療報酬改定は介護報酬とのダブル改定となる。今パ
イプがあるので、会員のこと
を最優先に考え提案した。

（長野県）各都道府県に持ち
帰り、意見集約するならば、
今回の開催はここまでの話
だ。

（奈良県）国民のための医療
を提言して欲しい。

（三重県）常任執行委員会
意見がまとまらないのは、会
員としてこの先不安だ。原中
勝征委員長をはじめ新体制で
スタートしたわけであるか
ら、執行部は一致団結するべ
きだ。

（山口県）先ほど委員長は筋
論を述べられた。まったくそ
の通りだ。山口県医師連盟
の話をするが、政権交代が
あった場合、その政党を見極
めることが必要だとのこと
で、参議院選挙の結果をみて
判断したい。選挙前の舵取り
は控えている現状だ。

（福岡県）総力を上げて当選
させた西島英利議員の推薦を
取り消すことはないか。

（委員長）西島英利議員だけ
を推薦すれば、民主党はおそ
らくわれわれを切るだろう。

（奈良県）過去の機関決定に
こだわる必要はない。決定当
時とは状況も異なる。今の状
況下では、多様性は当然であ
る。逆に、ここでの機関決定
が総意であるということであ
れば、各県もしばられる。

（佐賀県）いろいろな発言が
あるが、やはり政権政党でな
いと意味がない。職業団体と
してブレない日本医師会のポ
リシーを出すべきだ。今、仮
に民主党に寄れば、自民党の
時と結果は同じことだと思う。
右往左往するよりも、日本の
医療を第一に考えてほしい。

（福岡県）7月の参議院選挙
まで時間的な制約がある。西
島英利議員の混合診療の阻止
など、これまでの実績を考慮
すべきではないか。候補者を
複数擁立すれば、力は分散さ
れる。

（三重県）これまでの機関決
定は白紙撤回すべきだ。4月
14日のメデイファクスで自民
党の鴨下一郎政調会長代理が
発言しているように、日医は
政権交代に左右されない団体
を目指すべきだ。地域医療を
安定的に提供していくため、
政治に翻弄されるのはみつも
もない。

（埼玉県）地域に持ち帰り議
論をということだが、地域で
も決めかねる状況だ。執行委
員会での論点を明確にしてい
ただきたい。

（奈良県）組織の長は大きな
権限と責任を持っているが、
今日のようなことはまとまら
ない。後はわれわれが従うか
どうか判断するのみだ。

（委員長）今の民主党の政権
では、これまで通らなかった
ものが通る状況だ。しかし、
小沢一郎先生の性格からし
て、自民党だけを推薦すれば
必ず切られる。機関決定した
西島英利候補についても、再
度、都道府県医師連盟に協議
いただいた上で、執行委員会
で審議し決定したい。

（広島県・松村代理執行委員）今
夏の参議院選挙は誰も推薦し
ないのが一番適当ではないか。

とまらないのか、その論点を
明確にしていだきたい。そ
の上で持ち帰って検討した
い。

（執行部）手続き論の問題
だ。最終的な機関決定は、こ
の執行委員会である。

（佐賀県）自民党の西島英利
議員の推薦を撤回しろと民主
党から言われているのではな
いか。当然、会長に就任した
からといって何でもありでは
ない。新聞報道からは、西島
英利議員の推薦を取り消せと
読み取れる。

（執行部）正式に民主党から
言われていない。手続き論と
して再度、各県からご推薦い
ただきたい。

（栃木県）候補者云々ではな
く、最終的には候補者が当選
しなければ意味がない。委員
長の最終判断、方向性を示し
ていただきたい。

（委員長）2名の候補者を擁
立してもおそらく落選する。
仮に自民党の西島英利議員を
推薦しても、これまで組織票
を獲得し当選を果たしてきた
自民党は非常に苦しいだろ
う。

2人とも落選するならば、当
然1人を擁立することが得策
だ。西島英利議員の実績は高
く評価するが、この国の政治
を動かしているのは片手程度
の人たちだ。民主党から候補
者を擁立した方が得策だと考
える。現実的なことを考える
と、1人の擁立でかつ民主党
からが望ましい。しかし規約
があり、会は閉会した。

（執行部）正式に民主党から
言われていない。手続き論と
して再度、各県からご推薦い
ただきたい。

上、それは言えない。繰り返
しになるが手続きが必要なた
め、一度、各県にお持ち帰り
いただき、意見集約をお願い
したい。

執行部として、手続きは踏
んだほうがいいとのことだ。
再度、各都道府県医師連盟に
対し、西島英利議員の推薦な
どについて審議いただきたい
との結論であった。

最後に、原中委員長は、い
かなる結果になろうとも委員
長の職を辞することはないと
発言した。

本日の委員会終了後、各都
道府県医師連盟に対し、正式
に文書にて依頼するので、早
急に各都道府県で委員会を開
催の上、意見集約をお願いし
たいと再三にわたる協力要請
があり、会は閉会した。

広島県医師連盟執行委員会・地域医政活動推進委員会・各科医会合同会議

平成22年5月1日(土) 18時30分 ホテルグランヴィア広島 4F「悠久」

自民・西島氏の推薦「白紙撤回」、日本医師連盟を支持

広島選挙区は民主党・柳田稔氏、自民党・宮沢洋一氏の両氏を推薦



柳田 稔氏



宮沢 洋一氏

去る4月20日に開催された日本医師連盟執行委員会におい
て、今夏の参議院選挙における日医連推薦候補者問題で、現
職の西島英利参議院議員の処遇の議論がまとまらず、結論を
出すに至らなかったことに対し、早急に各都道府県医師連盟
にて意見を取りまとめるために本執行委員会を開催した。

（松村 誠 常任執行委員（司会））
会・地域医政活動推進委員 日、ゴールデンウィークの真
会・各科医会合同会議を本 只中にもかかわらずお集まり

まず、広島県医師連盟、確
井静照委員長がご挨拶申し上
げる予定であったが欠席のため、副委員長の檜谷義美より
ごあいさつを申し上げる。

檜谷義美副委員長 挨拶

先程の説明の通り、参議院
選挙が7月と、もう間近に
迫っているが、日本医師連盟
としてどう対応するか。原中
執行部を中心に日本医師連盟
の中で議論をしたが、どうし
てもいろんな意見がたくさん
出た。

いろんな意見が出る中で、
ただ日本医師連盟としても、
もう間近に迫った参議院選挙
に對して、どういう態度決定
をするか、やはり決断をしな
ければならない。



手を願う。挙手多数。よって、宮沢先生と柳田先生の両氏を推薦する。

・4/20 日本医師連盟執行委員会について

高杉日本医師連盟常任執行委員
日本医師連盟執行委員会が4月20日に行われ、その前に常任執行委員会があり7月の参議院選挙の全国区をどうするか。

唐澤執行部時代に、政権が

日本医師連盟常任執行委員会の中でも意見が戦わされたことは、後で高杉敬久日本医師連盟常任執行委員から説明があると思うが、ここにお集まりの方々にもいろんな意見があると思う。

広島県医師連盟として今日やはり、意思決定をしていきたいと思っている。どうぞよろしく願う。

福永副委員長（司会交代）

・第22回、参議院議員通常選挙立候補者推薦について

榎谷副委員長

現在、柳田稔参議院議員と宮沢洋一氏の2名から推薦依頼が届いている。

広島県常任執行小委員会では検討したが、碓井静照広島県医師連盟委員長からも、この2名の推薦を広島県医師連盟としていただきたいとのことである。

福永副委員長

それでは採決をとる。両氏を推薦に賛成の方は挙



であり、それを支える日本医師連盟としては、どうするかということが議論されていた。

しかし、やはり西島ファンは根強く、常任執行委員会でも議論が紛糾したように日本医師連盟執行委員会でも、なかなか結論に至らなかった。

そんな中、政権政党である民主党からは、非常に危ない医療政策が次々と出ており、だからこそ、ものが言える医師会として行動したいと考えている。

最近の医療マニフェストにおける医療政策について、民主党の施策の中に、いわゆるライフイノベーション、健康

大国戦略があるが、この中には従来の混合診療につながるものが含まれている。

医療介護を健康関連産業で国を立て直すと言いつながら混合診療につながるもの、例えば保険診療外の特定診療の広

がりとか、あるいは、規制改革をさらに進めて患者負担を増やすとか、いろんなことが言葉巧み入っているが、その

中には、貧富の差で医療が受けられないことにつながるということで、4月14日の日本医師会定例記者会見でも述べ

ているがこれに對して、民主党の医療に関する政策に対しては、きちんとものを言っ



左右したとは思えない事実もある。したがって原中委員長から西島支持を白紙に戻したいとの言葉が出たが、なかなか結論に至らなかった

私は今度の新しい原中執行部に入らせていただき、いわゆる「捻れ現象」とか、副会長が全員、他の派閥だ

とか、いろいろと言われていたが、スタートしたら、やはりノーサイドで、みんな力を合わせて進んでいる。

ただ西島支持に関しては、やはり執行部の中でも、ご存じのように羽生田先生のところ

は友人であるので中々それが口に出せない雰囲気はある。

しかし、新しい会長を選んで新しい日本医師会の戦略を練り広げるためには、やはり新会長の方針の下に、私は一新すべきだと思っ



してくれており、原中会長はブルドーザーみたいな人である。とにかく私心は無く一心不乱に医療を良くするということ

1点のみで進んでおられる。それを支えるためにはどう

するかであるが、ここは広島県医師会が、今の新体制を支援して医療を変えていくという方針を、明確にしていただけ

たら幸せであり、これが日本の医療を動かす力になると思う。

今の民主党幹事長や首相はゴタゴタしているが、2年後の医療介護を良くするために、是非ともこの現政権に、

日本医師会として発言力を増す行動が起これたらと、そんなことも思いつながら今日は

質問があればお答えするが、なかなか声に出せないこと

もあり、実情をお話ししながら苦しい胸の内をお察しいただければ幸いです。

広島県医師連盟執行委員会委員名簿

(平成二十二年四月)

委員長 碓井 静照（広島県医師会長）	区付五 温泉川梅代 （広島県医師会常任理事）
副委員長 榎谷 義美（広島県医師会副会長）	区付六 新本 稔
福永 泰州（広島県医師会代議員議長）	区付七 細木 宣男 （広島県医師会副議長）
福原 千史（広島市佐伯区医師会長）	区付七 井上 文之 （福山市医師会副会長）
常任執行委員 （小選挙区担当責任者七名）	全区付 津久江 一郎 中村 英雄 森 康 望月 高明 行武 純一 兼山 敦 木村 進 古川 義紀 浜脇 純一 土谷 晋一郎 種村 一磨 大谷 宏明 末丸 紘三 畑野 栄治 白川 敏夫 榎殿 敦
一 区 長崎孝太郎 （広島市医師会長）	全区付
二 区 松本 春樹 （佐伯地区医師会長）	全区付
三 区 伊藤 仁 （安佐医師会長）	全区付
四 区 佐々木正博 （東広島地区医師会長）	全区付
五 区 豊田 秀三 （呉市医師会長）	全区付
六 区 片山 壽 （尾道市医師会長）	全区付
七 区 森近 茂 （福山市医師会長）	全区付
総括 松村 誠 （広島県医師会常任理事）	全区付
事務総括 空本 栄二 （広島県医師連盟事務局）	全区付
区付一 平松 恵一 （広島県医師会常任理事）	区付一 島筒 志郎 （広島県医師会常任理事）
区付一 有田 健一 （広島市医師会常任理事）	区付一 坪井 信治 （前大竹市医師会長）
区付一 榎坪 毅 （広島市医師会常任理事）	区付一 福永 晶 （広島県医師会監事）
区付一 山中 祐介 （広島市医師会副会長）	区付一 平尾 勝 （元広島市佐伯区医師会長）
区付一 佐々木 博 （広島市中区医師会長）	区付一 中林 昭策 （三原市医師会長）
区付一 松原 進 （広島市中区医師会長）	区付一 弓場 通正 （因島市）
区付一 川上 正仁 （広島市南区医師会長）	区付一 荒田 寿彦 （大竹市）
区付二 天野 國幹 （広島県医師会常任理事）	区付一 澤崎 晋一 （安芸高田市）
区付二 大久保雅通 （広島市医師会副会長）	区付一 長谷川 頼彦 （賀茂郡東部）
区付二 （福原 千史）	区付一 江川 恵基 （山県郡）
区付二 （広島市佐伯区医師会長）	区付一 田村 淳 （豊田郡）
区付二 明海 国賢 （広島市西区医師会長）	区付一 浅野 稔 （竹原地区）
区付三 堀江 正憲 （広島県医師会常任理事）	区付一 瀬尾 泰樹 （世羅郡）
区付三 吉川 正哉 （安佐医師会副会長）	区付一 橋高 英之 （松田地区）
区付四 柳田 実郎 （広島県医師会常任理事）	区付一 長 健 （府中地区）
区付四 井之川廣江 （広島市医師会常任理事）	区付一 星田 昌吾 （三次地区）
区付四 菅田 巖 （安芸地区医師会長）	区付一 戸谷 完二 （庄原地区）
	特別委員 寺岡 暉 （医療政策研究会議長）
	議長 （会議の都度、執行委員より互選する。）
	日本医師連盟常任執行委員
	高杉 敬久
	碓井 静照
	榎谷 義美
	福永 泰州

広島県医師連盟収支決算報告書（平成21年）

自 平成21年1月1日
至 平成21年12月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
	(円)		(円)
個人負担金（※）	43,050,000	政治活動費	54,460,000
		組織活動費	3,720,000
寄 付	18,013,731	選挙関係費	9,500,000
交付金（日医）	16,496,000	その他の事業費	0
その他寄付	1,517,731	寄付・交付金（日医負担金等）	41,240,000
その他の収入（預金利息・手数料）	457,660		
		事 務 所 費	7,337,027
		旅費交通費	1,572,167
		通信運搬費	1,906,079
		印刷製本費	703,237
		委員会費	2,908,314
		雑 費	247,230
小 計	61,521,391	小 計	61,797,027
前年度繰越金	27,771,569	次年度繰越金	27,495,933
合 計	89,292,960	合 計	89,292,960

（※）個人負担 2,050名×21,000円＝43,050,000円

貸 借 対 照 表

（平成21年12月31日）

1. 資 産 の 部		
(1) 流 動 資 産		
	(イ)現金 預 金	27,495,933
	広島信用金庫 普通預金	27,495,349
	広島銀行 普通預金（預り口）	584
	(ロ)未収入金	0
	流動資産合計	27,495,933
2. 資本・負債の部		
(1) 流 動 負 債		
	未 払 金	0
	流動負債合計	0
3. 差引正味財産		27,495,933

衆議院議員松田仁を励ます医療福祉後援会収支報告書（平成21年）

自 平成21年1月1日
至 平成21年12月21日

収 入 の 部		支 出 の 部	
寄 付	0	政治活動費	352,666
交 付 金	0	寄 付 金	352,666
その他の収入（預金利息）	128	経常経費（事務所費・雑費）	0
小 計	128	小 計	352,666
前年度繰越金	352,538	次年度繰越金	0
合 計	352,666	合 計	352,666

繰越額内訳：もみじ銀行
普通預金 0

自由民主党広島県医療会支部収支報告書（平成21年）

自 平成21年1月1日
至 平成21年12月21日

収 入 の 部		支 出 の 部	
寄 付	138,880	政治活動費	1,165,065
交 付 金	0	選挙活動費	0
寄 付	138,880	選挙関係費	0
		寄 付 金	1,165,065
その他の収入（手数料）	7,000	経常経費	3,440
小 計	145,880	小 計	1,168,505
前年度繰越金	1,022,625	次年度繰越金	0
合 計	1,168,505	合 計	1,168,505

繰越額内訳：広島信用金庫
普通預金 0



なくとも辛い」という非常に難しい立場、日本医師会も、難しい立場、これも医療の過渡期であるので、民主党政権に、ものが言えたということは、医療費削減をストップさせた成果でもある。

医療費がプラスになるかは財源の問題があるが、とにかく前に進める力としての、医師会の力が問われている。そのように思っている。



兼山常任執行委員

6年間に西島氏が、かなりの実績を上げられたというが、われわれ末端の医師会員としては、西島氏が良いことをしてくれたという実感は全く受けていない。

この際、日医は自民党と

福永副委員長

それでは採決をとる。

西島氏の推薦を白紙撤回とすることに賛成の方は挙手多数。

よって、西島氏の推薦を白紙撤回とする。

渡辺医政活動推進委員

決めたことに異論があるわけではなく、ご意見を教えていただきたい。

今回の日医の会長選挙の時に、3人の候補の方々と、も、政党に偏るではなく、国民市民の視点に立って、有益な施策を実施するところとを重視すると言われたと思う。

先ほどの広島県選挙区の候補者に対しても、恐らくその考えでお2人の候補を選びになったと思う。

ただ、それが国政になる

と、突然、片方は駄目で片方は良いになるのなら、日医会長が立候補された時の、いろんな公約からすると、やはり政党に偏っている、国民に受け取られるのではないかと危惧するが、そのあたりは特に問題ないとお考えか。

檜谷副委員長

おっしゃる通りだと思う。政策提言は医師個人のためではなく渡辺委員が言われる通り、国民目線に立つた社会医療、社会保障を守るための政策の実現ということである。

しかし、政権に対して提言をしていく訳であるので、政権を担っている政党に対して意見を言っていかなければいけない。

政権与党であるところに政策提言であれば今この時点で、自民党も民主党も両方とも推薦すること、これにしなければ、これは、今現在の政権与党である民主党に対して、日本医師連盟は非常に軽く見られてしまう可能性は高いと思う。

これは、私個人の意見であるが、政権与党、今の民主党に対して政策提言するためには、自民党とダブルの推薦では、相手にされなくなる状況が生まれる。

渡辺委員の言われる通り国民目線であれば、それは、広島県医師連盟で自民党議員と民主党議員の2名を推薦したと同じように、日本医師連盟でも2名を推薦するという考え方もある。

日本医師連盟常任執行委員会の中でも、原中会長とすれば苦渋の選択だと思うが、西島議員ともう1名、民主党の議員をダブルで2名推薦するという案も常任執行委員会の方では検討されたと言われた。

ただ、今日ここで広島県医師連盟として、今の提言が白紙撤回と結論を出すのか、それから渡辺委員が言われたように、西島氏ともう1名、民主党からも推す考えもある。

広島県医師連盟としてはその選択肢もある。

渡辺医政活動推進委員

4月20日の原中委員長の最後の言葉でも、西島氏を推すことはないと思われる。

詭弁ではないが、そうい

う意見があるように言われたが、意見はないと私は思う。

しかし、政権与党に政策提言が言えるように、推薦しないとおそらく医師会は駄目である。

自民党に今までこれだけ診療報酬を下げられた訳で、国民の目線でわれわれが政策提案していかないと成り立たないと思う。だからやはり、政権与党を推して頑張っていたきたい。

高杉日本医師連盟

常任執行委員

私も原中会長も民主党ではない。

ただ、日医が原中会長に変わり、4月の第1回の理事会で、その日、執行部全員が鳩山総理と長妻厚労大臣と会った。

要するに、われわれは意見を提言すると聞いてもらえる。悪い政策は改めてくださいと、直に話ができる。この迫力を私は感じた。相手にしてくれない医師会では、やはりだめだ。

この政権が壊れたらその時考えるとして、原中会長も引退すると言っており、原中会長のこの突進力は、やはり支持していかないと、途中切れでは何のために新しい会長を選んだのか、なんの意味があるのか、分かんなくなるような気がする。今、厚労省自体も、政権と政治が、官僚にやらせないということ、逆に、官僚が静かになっているが、官僚たちに、ものを言わせる

のも日医の力かもしれない。政策と一緒に考えながら、実現するのが政治の力であると私はとらえるようになった1カ月である。

寺岡特別委員

結論から言うと、やはり高杉先生を広島県医師会から出し、また日医執行部が今の体制になったわけであるので、会長の意向というものを尊重するというのが、最終的な結論だと思ふ。

しかし、私は元日医執行

部として、かつての仲間である西島氏を推薦したにもかかわらず降ろすことは、人情的に非常に辛い。「泣いて馬鹿を斬る」の思いである。

しかし、実績において十分に支持されていないこと、それから、もう政権が代

わった今の状況になった以上は、方針を変えるべきである。

両方並び立つことはできない訳で、平成20年9月16日の日本医師連盟の参議院

比例代表候補者およびその他候補者の推薦選考基準には、日本医師連盟の推薦枠を審議し、今後の日本医師会としての姿勢をどうするか。

あるいは、地方の意見を尊重することや、執行部としての責任を果たすことなど、いろんな話をさせていた

た。

私たちは執行部、特に横倉先生は西島先生と同じ出身県であり、羽生田先生は西島先生と、ずっと長い間一緒に、この医師会活動をされ、政治活動の親友でもある。その執行部としての調整の中で、各

県から出されたご意見と、西島先生に対する思いを十二分に理解した上で、苦渋の選択と云うか、本当に私自身も顔を見ていただければわかるが、眠れない状況である。

今回の苦渋の選択は、決して自分の意見を通すことではなく、執行部の会長として、あるいは委員長として、今後の日本医師会がどういう立場で、政権与党との関わりを持つのか。今のよう力のない行動をとっている民主党に対して、本当に支持を続けてい

いのか、という問題まで含めて、執行部内で議論をした。

執行部内には、世論の支持が低くなっているからこそ、われわれが応援すれば、貸しが多くなるという意見もあった。

しかし、そういう世論の流れではなく、やはり西島先生に対する思い、それから長い間のおつき合い、その大切さも十二分に、私たちは理解した上で、いろんな議論をさせ

ていただいた。昨日は副会長ならびに藤川政治担当の先生と協議をして、次のような結論を執行部として出させて

いただいた。

それは、組織候補は立てない。それから日本医師会員であり、日医の意見を理解する人で、2県以上の推薦を受けた候補であるならば支援される資格があるということ

を前提に考えた。ただ、今の政権が少なくとも2年後の、医療費あるいは介護報酬改正の主導を持つことは確かである。

しかし、私たちは、医療費だけを問題にして、このよう

なことを決めることは決して良くないであろうと、執行部の中では随分と話をした。今日の結果で日本医師会が割れて、この医師連盟が割れた結論を出すとするならば、また新聞で日本医師会が二つ三つに割れているという批判を受けるであろう。

それから、今の執行部の約束としては、たとえ今後、自

民党が出てきても、民主党がこのまま政権を続けても、日本医師会としては変わらな

い、きちんとした医療政策を一生懸命に民主党に対して実行させる。あるいは決めさせるということであり、それが一つの条件のような形で、民

主党にも理解していただきたい。

常任執行委員会の最後に、石川先生のご意見で、「日本医師会には有能なというか、社会的に知識の高いグループが、ここでまた、2つに割れることを考えるならば、それはまずい。だから、委員長に対

して一任するということで、この常任執行委員会を終わろう」ということで、決を取らず、拍手を持って委員長一任ということ

日本医師連盟執行委員会

たかお

民主党・安藤高朗氏は「推薦」、 自民党・西島英利氏、 みんなの党・清水鴻一郎氏は「支援」



安藤高朗氏



西島英利氏



清水鴻一郎氏

平成22年5月11日(火)16時00分、原中新執行部の発足後、2回目の日本医師連盟執行委員会が日本医師会館3階小講堂で開催された。今回の議題は、4月20日に開催された第1回目の日本医師連盟執行委員会の持ち越し議題であった、第22回参議院議員選挙における西島英利候補ならびに民主党候補の処遇の決定であったが、結論が出せず、都道府県医師連盟の持ち帰り審議となり、全国の医師連盟の意見を集約して、改めて今回、西島英利候補、ならびに他の候補の処遇審議となった。

結果は、当日の執行委員会に先立ち開催された常任執行委員会でも出された結論が「原中委員長一任」であり、委員長の苦渋の判断で民主党候補である、安藤たかお氏を「推薦」、自民党候補である西島英利氏を「支援」、みんなの党候補である清水鴻一郎氏を「支援」とする判断であった。

これに対し、会場からはさまざまな意見があったが、現日医執行部は政党内に左右されない日本医師会を目指す方針であるが、現在の政権与党である民主党との良好な関係を考慮し、仕事のしやすい環境を整える意味で、原中委員長の一任が採択され、日本医師連盟としての候補の処遇も原中委員長案を採択した結果となった。

なお、会場からは日本医師連盟の意見は尊重するが、都道府県医師連盟の事情も考慮して、必ずしも日本医師連盟と同じ処遇にはならないとの意思表示もあった。

【原中委員長 挨拶】

今、常任執行委員会、この執行委員会に提案する議案を審議し、今後の日本医師会としての姿勢をどうするか。あるいは、地方の意見を尊重することや、執行部としての責任を果たすことなど、いろんな話をさせていた

た。

私たちは執行部、特に横倉先生は西島先生と同じ出身県であり、羽生田先生は西島先生と、ずっと長い間一緒に、この医師会活動をされ、政治活動の親友でもある。その執行部としての調整の中で、各

県から出されたご意見と、西島先生に対する思いを十二分に理解した上で、苦渋の選択と云うか、本当に私自身も顔を見ていただければわかるが、眠れない状況である。

今回の苦渋の選択は、決して自分の意見を通すことではなく、執行部の会長として、あるいは委員長として、今後の日本医師会がどういう立場で、政権与党との関わりを持つのか。今のよう力のない行動をとっている民主党に対して、本当に支持を続けてい

いのか、という問題まで含めて、執行部内で議論をした。

執行部内には、世論の支持が低くなっているからこそ、われわれが応援すれば、貸しが多くなるという意見もあった。

しかし、そういう世論の流れではなく、やはり西島先生に対する思い、それから長い間のおつき合い、その大切さも十二分に、私たちは理解した上で、いろんな議論をさせ

ていただいた。昨日は副会長ならびに藤川政治担当の先生と協議をして、次のような結論を執行部として出させて

いただいた。

それは、組織候補は立てない。それから日本医師会員であり、日医の意見を理解する人で、2県以上の推薦を受けた候補であるならば支援される資格があるということ

を前提に考えた。ただ、今の政権が少なくとも2年後の、医療費あるいは介護報酬改正の主導を持つことは確かである。

しかし、私たちは、医療費だけを問題にして、このよう

なことを決めることは決して良くないであろうと、執行部の中では随分と話をした。今日の結果で日本医師会が割れて、この医師連盟が割れた結論を出すとするならば、また新聞で日本医師会が二つ三つに割れているという批判を受けるであろう。

それから、今の執行部の約束としては、たとえ今後、自

民党が出てきても、民主党がこのまま政権を続けても、日本医師会としては変わらな

い、きちんとした医療政策を一生懸命に民主党に対して実行させる。あるいは決めさせるということであり、それが一つの条件のような形で、民

主党にも理解していただきたい。

常任執行委員会の最後に、石川先生のご意見で、「日本医師会には有能なというか、社会的に知識の高いグループが、ここでまた、2つに割れることを考えるならば、それはまずい。だから、委員長に対

して一任するということで、この常任執行委員会を終わろう」ということで、決を取らず、拍手を持って委員長一任ということ

を認めて

いただいた。

私はこの委員長一任は、私個人ではなく、ここに並んでいる常任執行委員の先生方全員の気持として、政権与党がこれだけ私たちの意見を聞くようになった。

という現実を踏まえた時に、やはり民主党公認の安藤先生を、組織内候補ではなく

「推薦」という形にしたい。

それから、規約にはないが、西島先生、みんなの党の清水先生、この先生も私たちの仲間であって、私たちの意見もよく分かっている。

だから、この人達を「支援」という形にしたい。実際には推薦と同じような形で私たちが、応援をすると決めさせていただいた。

日本医師連盟常任執行委員会としては、安藤先生を「推薦」し、西島先生、清水先生を、資金面でも、対等になるような「支援」とすること、了解を得たことを報告申し上げる。

【質疑応答】

（愛知県医師連盟）

前回の執行委員会では、都道府県の意見を聞くという

ことであつたが、都道府県のご意見を聞いた結果をこの場で情報公開していただきたい。

われわれが、なぜこの場所にきたのかわからない。常任執行委員の先生方や原



中先生が苦渋の選択だといわれたが、しかしながら、愛知県医師連盟も執行委員会と常任執行委員会を開き、執行委員の人たちは90名いるが、さまざまなご意見をいただいている。したがって、情報をしっかりと公開していただかないと、この決定について、われわれも理解できない。

まず、愛知県医師連盟執行委員会が決めたことを持つて来ているので、これをこの場で、ご報告申し上げる。

まず、第22回参議院選挙における愛知県医師連盟の方向これについてのアンケート調査を実施した。

結果は西島支援・組織支援は14・4%、民主党の組織支援は4・4%、西島支援ならびに自民党支援というのが63・3%、したがって西島先生を支援するは、合わせれば78%以上である。

この結果を踏まえ、私たちは第22回参議院議員選挙にあえて、候補者の推薦基準についてこのように決定した。

しかし原中委員長が言われたことは私も理解する。

政治家個人を応援し、政党に囚われることなく、医師会の医療政策に理解のある特に医師である候補者に対しては、所属政党に関わりなく原則として推薦する。このような結論となっている。

したがって、この常任委員会で決められた、あるいは都道府県で決められた情報を公表していただきたい。

（秋田県医師連盟）

われわれは、平成14年からすでに政党支持という言葉を外して個人支持という格好になっている。今回の西島先生の推薦についても、政党支持ということから外れ個人支持で、きちんとした対応が出ている。

しかも、西島先生の6年間の仕事そのものについても、いろいろ評価はあるが、総合的に判断した場合、医系議員としてしっかりとした日医の代表として頑張っている。われわれはそれを評価し、西島候補を外すということは全く考えないと態度を決めた。

（岡山県医師連盟）

岡山県は会長の方針で、3月28日に医連と県医師会が分離するということを決めており、慌てて5月1日に新しい規約を承認していただく会を開いてその時に聞きましたところ、やはり、「西島先生を推薦しない。」ということに賛成の人は誰もおらず、参加者20人全員が西島先生を推薦

し、他に誰も推薦することはなかった。

岡山県は、ちょうど4月17日に選挙があり、この選挙には、われわれの仲間である医師会長が、立候補したが、この先生は菅副総理の義弟でありこれは楽勝の選挙だろと思っていたが、民主党の政治と金、普天間基地問題などから支持率が下がり最後には大差で敗れてしまった。

選挙期間中は菅副総理も3回ほど、岡山に見えて応援演説をされたがこのような結果が出たということを踏まえて岡山県医師会が医師連盟の分離をした。これから会員を獲得するが、やはり西島先生支援の声が出ている。

（佐賀県医師連盟）

政党というよりも、やはり個人を推薦する時代に入った。前回も申したように、時の政権政党にものを言わないと政策は実現しない。

しかし、世の中が変わり政治が変わり、政権政党が変わる時代になった現在で、これは政党ではなく個人を推すことに徹底すると。われわれには職業の選択の自由があるので、中央に出て仕事をしたいという会員が出れば、医師会として、応援をするのがスタンスだと思ふ。

選挙は私も素人で分からないが、団体戦をやるか個人戦をやるかである。団体戦をやるのであれば、執行部が決めたい意見に、末端一人一人の全員がそれを書かなければ団体戦にならない。現実的に蓋を開ければ、日医連では22

3万票しか集まらないので、選挙は個人戦になる。

中央に出たいという人が出ても、その人に人望、能力など、すべて考えて個人が投票するわけであり、日本医師会としては、会員が出たいということがあれば、全員推薦するべきだと思う。

それから、政治のことも私は素人だが、貸し借りの世界でヤクザの世界である。俺の言うことを聞けば何とかしてやる。なんて世界である。

そういう世界から日本医師会を足を洗うと、アピールを出すべきである。

（岐阜県医師連盟）

先ほどの委員長のお言葉の中で、一番これを確認しなければいけない言葉が、委員長一任という言葉である。常任執行部で一任ということで作られたのか。

それともうひとつ重要なことはやはり、安藤候補を推薦して、西島候補を支援すること。また、金銭的には同等に扱うとのことだと思うが、前回の組織内決定したそれを覆す根拠がないと思うが、この問題二つを質問したい。

（横倉副委員長）



今の置かれてある政治状況、そして日本医師会が会員のためにどのような医療政策を展開するか、特に今、いろいろと規制改革に関するいろんな問題が出てくる。それは小泉さんの時代の混

合診療の問題が、また再現をしていることなどを踏まえると、やはりどうしても医師会活動を支援する政治環境を作らなければならぬ。

そんな議論の中で、やはり原中委員長が今、政権与党に大きなパイプをお持ちであることは先生方もよくご存じと思う。

中川副委員長が今、政策担当でよく政治の場で交渉しておられるが、この規制改革の問題でも、いろいろ話をすればある程度は、聞いてもらえるという。政策転換に繋がってきた実感はある。

その現状から、常任執行委員会ではいろんな意見が出たが、少なくとも副会長、常任理事である常任執行委員は、やはり委員長が仕事のやり易い環境を作ろうというところで、一致をしているとお答えをさせていただきたいと思う。

私も、西島先生の地元であるが、本当に彼の選挙を一生懸命やって来たし、4月までは福岡県の医師連盟の委員長をしていた。

昨年、政権交代があったが、たとえ福岡県だけになっても西島をしっかりと通すように頑張るということでもあった。

そういう気持ちで、日本医師会の会員の先生方のこと、また患者さん方、国民の皆さん方に、より良い医療を提供するために、やはりそういう選択かな、というのが今現在の心境である。

西島先生または清水先生については、しっかりと支援される県で頑張ろうというメッセージも委員長から出され、頑張っていた都道府県医師連盟にはきちん

と選挙の費用は出す、ということですので、今日は、突然のことであるが、今日のわが国において、今の日本の医療の現状を考えると、何とかこの線でいかないかと。なかなか厳しいという現実も、感じていただければと思っている。

（福島県医師連盟）
委員長の苦渋の選択はよく分かるが、ここは日医連執行委員会である。会長一任とは代議員会ではない。ここは執行委員長一任ということならば分かる。

言葉尻を捕まえて申しわけないが、これだけおかしな選挙になったのは、自民党政権が長く続いた悪影響もあると思う。しかし、これだけ民主党を勝たせたのは原中さんの責任であり、もしも3人とも落選した場合は、原中委員長はA級戦犯と今から申し上げる。

（北海道医師連盟）
横倉先生が言われたことは、よく理解できるが、それは今まで自民党の政権時代、自民党に対して、いろんな貸しを作っているいろいろな点というか利益を引っ張りだそうとした過去の執行部と同じ方法だと私は思う。これは間違いで日本医師会が変わらなければいけないと思う。

もう一度、去年の秋10月の代議員会で述べさせていただいたことを発言する。

わが国においては、今後政権交代が起こり、既存政党も消失、融合、離散を繰り返す、やがては収束されること

が考えられる。
この過渡期において、われわれ日本医師会は、時の政権に擦り寄ることなく、また政治的に一部の政党に偏らず、専門職能集団として、人間活動の広大な社会空間に浮かぶ独立した確固たるプラットフォームに立ち、会員が一致団結し、国民の医療や介護、健康や日常生活の安心安全を守る正論を、国民と政府に堂々と政策提言し、国民の賛同を得るよう、努力すること

が、王道を歩むということであらうと考える。
閉塞感漂う厳しい社会情勢の中においても、われわれは安全で良質な医療を提供し、市民に信頼され、市民が健康で安心して暮らせる街づくり

に、寄与する真摯な医師会活動を展開しなければならぬ。
これがわれわれ医者である者の、基本理念だろうと思う。例えば、小沢先生と親しくお話されて何か要求されたら、それで混合診療を導入されるのであれば、それはもう導入されてもいいのではないか。

それはおかしいと言えない。されば、それをまた、ひっくり返せばいい。われわれはもう政党に寄り添って政党に言われるままに、その影

響を得ようとして、努力するのは止めたかどうか。

日本医師会は独立した組織であるということ、きちん国民に示して、多少の被害にあっても、それは仕方ない。

私は、原中委員長は非常に頑張って、よくやられる方と想っている。

ただし、先生が茨城県医師会の会長であって民主党のためにやったのはよく理解するが、世の中も変わるし、先生の考えが多少変わって、も、よろしいのではないかと思うが、いかがなものか。

（原中委員長）

日本医師会のあり方を申されたと思うが、私の主張はまったくそれと同じである。

今先生が民主党との仲や、小沢さんとの仲を言われたが、私は民主党に対して、一つも頭を下げていない。

今、日本医師会が考えなければいけないことは、今まで、あまりにも自民党に偏りすぎていたことだ。その反動が来ている。だから私たちも民主党に対してそんな態度は絶対とらない。

あくまでも私たちは医師として、医師はどうあるべきかということが基本にあり、今度の医療改革に関しても、今、中川先生と今村聡先生に一生懸命に戦ってもらっている。

戦っていることは、今までの自民党あるいは民間規制改革委員会から出て来たことに対する抵抗である。

これは、どういう政党が出てこようと、今後、日本医師会というのは、そういう政党に振り回されることでは決していけない。

だから長い間、自民党が政権政党であったために、日本医師会はその態度をとらざるを得なかった反省に立ち、私たちは、民主党に対して媚を売ることではない。

むしろ私たちが言っているのは民主党が非常に危ないということである。要するに、医療のことを知っている人がいない。だからこそ私たちがきちんとしたことを教えないといけない。

私が今度の民主党のマニフェスト作りの、生活研究会に出たときの記事を見られたと思うが、あの時、委員長の中野先生がこう述べた。「一番の味方だと思っていた原中先生が一番の敵になる。」こういう発言をされた。

これは、民主党が国民のことを考えないような政党であってはならないからであり、それを私がきちんと指摘した。

小沢先生も鳩山先生も選挙の時に私に頼んだのは、民主党の中に医療政策を知っている議員がいない。医師免許を持つている議員はいるがパードクターだと。

だから、現場からの声を、民主党にどうぞ教えてくださいうことを言われたからやったのだ。今回も全く同じ態度で、医療を経済のために使おうという新自由主義の人たちの台頭がまた来ている。

それから、医者が足りない

ということ、医師の本来の姿を、別な職種がどんどん入ってくるような規制改革が行われようとしているわけであるが、われわれの処方せんが勝手に書いてもいということを勝手に議論されているわけである。

こういうことに関して、私たちはきちんとした態度を持って、医師のあるべき姿を示す必要がある。

しかし、これだけ、ねじれ執行部と世の中から批判されながら、これだけ、ひとつの執行部に固まったことは、決して私たちが媚を売らない、医師としての本当の姿を、永久に変わらな

い医者姿を今こそ作るべきだという一心で、私たちが一つになったわけである。どうぞ誤解のないように、むしろ先生の言葉は、今まで長い間続いた自民党に付き過ぎた反省だと思う。今度こそ、そうやってはいけないということである。

私たちは心から、皆さんと約束をしてきちんとした、医師としての立場、国民と一緒に、国民に開かれた、国民のために行動しなければならぬ。

良い医療制度がある国民は幸せなる。良い医療制度を持たない国民は不幸になるとこのことを私たちは、きちんと申しながら政権政党に対して、ものを言うという態度は変わっていないので、誤解のないようにお願いする。

（徳島県医師連盟）

原中委員長の話は一応分かったと思う。

その上で聞ききたい。もしそれであれば、どうして民主党の安藤候補だけ推薦して、他の候補を推薦しないのか。

3人とも、全く同じような処遇をすればいいと思う。

（中川副委員長）



私は唐澤執行部の最初から政策担当であり、自民党議員一辺倒そのものであり、あえてその時の野党の民主党とは、コミュニケーションを取らないように努めてきた。

それは、その時の政権与党、特に厚生労働関係議員の政治力を、最大限に發揮して欲しいという思いにつきる。

そのときに、野党である民主党に接触することが、自民党の厚生労働関係議員の、エ

ネルギーを殺ぐことになるのではないかと、直接そういうことも言われたということも事実である。

しかし、政権交代以降は激変した。それは、いろんな問題、政策的な間違いを正す交渉の相手を見つけない、99%のエネルギーを使うようになった。

中医協も外され、診療報酬改定の議論に正面から参加できないという状態も続いたが、しかし何とか、いろんな先生方のツテとパイプで、そ

れをお願いし、診療報酬改定にも最小限の関与はできたのではないかと想っている。

さらに今年の日医会長選挙を機に、3月31日までと4月以降は、われわれ執行部の環境は激変した。

自民党政権時代は、われわれがアポイントをとって、日本医師会の意向を聞いてくださうと言ってお会いして意見交換をしていた。

しかし4月以降は、民主党の方から日本医師会の意見を是非拝聴したいので、来ていただきたいという状況に変わったことは事実である。

私はそれをどうこう言うつもりはない。ただ客観的に、事実としてそうであるので申し上げただけである

が、立场上、4月以降は原中会長のそばにずっといる機会が1番多いのと言わせてもらいと、原中会長は非常に悩まれている。今でも悩んでいると思う。それは、この良好な与党との関係を壊したくないのだと思う。

もちろん多くの先生方のご意見のように、みんな推薦すればいいじゃないかと、いう気持ちもあるん原中会

ところ、政治的な環境が、それを許さないというのが小沢幹事長室の一番近くに

いる原中委員長が思っている実感だと思う。先ほど横倉副委員長も申し上げたが、昨日のわれわれの打ち合わせで、その会長の思いは決して否定でき

ないと、共通認識をした事実がある。その上で、今日の常任執行委員会、委員長一任という結論が出た。

何度も申し上げるが、本当に苦渋の中、原中委員長の結論だということである。

（原中委員長）

今、中川先生がたった1カ月間のお話をしていただいた。この1カ月の間に、私たちがまず行ったのは、福祉医療機構の解体ということ、今後、病院を改築したい、あるいは耐震構造の手段をとりたくても、お金がなくなってしまう。どうしてもあれは続けなければいけない。これが最初の仕事であった。

それには福祉の代表、4病院協会の代表の方が、小沢幹事長室に押しかけて、陳情したところ、ろくな返事がなかったわけであった。そこで、日本医師会の今村聡先生が行って「医師会としても決してこれ無くしてほしくない」と一言提

言すると、医師会がそこま

で言うのなら、ということとで存続になった。

それからもう一つ、病院とかいろんな団体がこんな

にいっぱい来られるよりも、病院の意見も、診療所の意見も、医療関係は医師会が

まとめ来て欲しいと。要するに私たちは病院協

るが、それを民主党の方から、提案されたということに驚いている。

それからもう一つ、やはりこの混合診療というもの

は、一応、この研究会で私が述べたことによって、医療費と介護費は必ず上げる。

医療崩壊、介護崩壊の基

本は、医療費の抑制、介護費の抑制である。当直をして年収が300万しかもらえない人たちが、結婚して子供を産めますかと、ちゃんと話して来た。

それからもう一つ、雇用法がどんどん拡大され、2055年には1・3人の働いている人が、1人のご老人のケアをしなければならぬ。

今、現在2・8人で1人のご老人をケアしているわけであるが、今の人たちは、曲がりなりにも、農業をしていた人、商店街を営んでいた人も、みんな3万から5万円ぐらいの年金をもらっている。

でも2055年を考えると、ください。今の若い人たちが正規の社員になれないで、お金を貯金していないで、あるいは年金を収めていない人はどうなるか。みんな生活保護である。

生活保護の人たちを国民1・3人で支えられるのか。働いている医師にも子供があり家庭があり教育がある。これを今考えなくてどうしますかと、強く申し上げて来た。

武見太郎先生は、いろんな批判は受けるが、しかし

今の介護保険というものを一番最初に言ったのは武見先生である。やはり医師会が国民の先の先まで考えながら、意見を述べていかなければいけない。

私たちは知能レベルの高い集団であるはずである。私は決して今の民主党相手に話をするのではなく、今、民主党がいろんなことを、われわれに意見を求めているからこそ、私たちが間違いない医療制度をきちんと作ることを消費税が上がる前に、解決すること。こういうことが絶対に必要だと思っ

て行動しているわけである。私は自分の年齢を考えてみたら、もう生きているのはあとわずかである。自分のことなど一切考えていない。本当に医師会が医者として、きちんとしたステータスを持つて、自信をもって生活できる、あるいは患者を救う、活動が出来るような医師会を作るということが、現在の私たち執行部の統一した気持ちであるので、今、先生がおっしゃったことがまさに私たちの目標であるので是非ご了解申し上げたい。

（奈良県医師連盟）
私どもは日本医師会として、その会務が十分に執行できるように、そのために、この医師連盟の決定に関しては、私は原中委員長に全一任にしたいと思うが、ただ、2点だけ、要望させていた

（奈良県医師連盟）
私どもは日本医師会として、その会務が十分に執行できるように、そのために、この医師連盟の決定に関しては、私は原中委員長に全一任にしたいと思うが、ただ、2点だけ、要望させていた

一つは、それぞれの都道府県ごとに置かれている状況が当然違う。したがって、それぞれの都道府県の対応に

関しては、日医連の決定を尊重させていただくが、それ以外の選択肢もありうるということとはご理解いただ

きたいと思う。それともう一つ、先ほどから言われているように、政治とのかかわり方を変えて行く絶好のチャンスだと考

えている。その意味で、先ほど言われたとおり、その会員が立候補したときに、何らかの支援を日本医師会として行うというのは、こ

れは当然の姿勢かと思う。今でも既に、これから立候補を予定されているという話

が伝わってきている方が何人いる。医師として、そういった方に対して、やはり医師会に対する理解度あるいは、

貢献度といった良いかわからないが、それに応じて、それぞれに支援をしていただけ

たら、よろしいのではないかと思う。中には、要するに推薦状1枚あれば、それでいいと言

う方もおられる。したがって、そういったことも考えていただ

きたい。ただ、日医連の推薦候補には複数県の推薦というこ

とがあるので、2県以上、複数の県の推薦があつて、そして日本医師会の会員であるということが、最低条件として必要であ

ろうという中で、今からすべて推薦ということとは難しいと思

っている。原中会長が最初に申し上げたように、民主党との良好な関係を今後も壊さない

ためにどうしたらいいかということも、会長はずっと考えられて

いる。私も直接会長と話をさせていただき、その結果、やはり今の良好な関係には、

民主党の委員を推薦するということ形をきちつとしなければなら

ないだろうと、副会長が言ったように私も感じている。ただ、やはり西島先生も、

この6年間は日本医師会の意見を国会の場で発表してこられ、また清水鴻一郎先生も、京都ではあるが衆議

院議員として、やはり日本の医療の本当の現場を知っている方

で、いろいろと努力もされているので、今回は支援としたわけである。推薦と支援という言葉が、

どのように皆さんがお取りな

るかは、やや、違いがあると思うが、推薦と、そして二人については支援をす

るということで、最終的には、昨日の夕方、委員長を含めて協議をさせていた

だ。ただ、日医連の推薦候補には複数県の推薦というこ

とがあるので、2県以上、複数の県の推薦があつて、そして日本医師会の会員であるということが、最低条件として必要であ

ろうという中で、今からすべて推薦ということとは難しいと思

っている。原中会長が最初に申し上げたように、民主党との良好な関係を今後も壊さない

ためにどうしたらいいかということも、会長はずっと考えられて

いる。私も直接会長と話をさせていただき、その結果、やはり今の良好な関係には、

民主党の委員を推薦するということ形をきちつとしなければなら

ないだろうと、副会長が言ったように私も感じている。ただ、やはり西島先生も、

この6年間は日本医師会の意見を国会の場で発表してこられ、また清水鴻一郎先生も、京都ではあるが衆議

院議員として、やはり日本の医療の本当の現場を知っている方

で、いろいろと努力もされているので、今回は支援としたわけである。推薦と支援という言葉が、

どのように皆さんがお取りな

るかは、やや、違いがあると思うが、推薦と、そして二人については支援をす

るということで、最終的には、昨日の夕方、委員長を含めて協議をさせていた

だ。ただ、日医連の推薦候補には複数県の推薦というこ

とがあるので、2県以上、複数の県の推薦があつて、そして日本医師会の会員であるということが、最低条件として必要であ

ろうという中で、今からすべて推薦ということとは難しいと思



も協力的に応援をしていくことになったので、名称は「推薦」と「支援」という形になったが、皆さん重々この気持ちを理解していただければ幸いである。

声 明 文

日本医師連盟は平成22年5月11日の執行委員会で、今夏の参院選比例代表の推薦候補につき協議を行い、自民党の西島英利参院議員の推薦を取り下げ、民主党の安藤高朗氏を推薦し、西島英利参院議員とみんなの党の清水鴻一郎氏を支援することを決定した。

原中勝征委員長は今回の決定について「苦渋の選択をした」と述べているが、われわれは苦渋の選択ではなく、短期的かつ中長期的展望に立った絶妙の選択と高く評価する。

すなわち、民主党候補を推薦することにより、政権与党と太いパイプを築き、医療崩壊、医師不足等の改善を含む医療再生に必要な診療報酬の大幅増等の日本医師会の医療政策を実現することを目指したものであり、優れた短期的戦略である。一方、西島議員と清水氏を支援することは、参院議員の任期が6年間であることを考慮した上での中長期的展望を踏まえたものであると考える。

われわれは今回の日本医師連盟の英断を断固支持するものである。

平成22年5月18日

広島県医師連盟執行部
委員長 碓井 静照